



$a_{n+1} = pa_n + q_1n + q_0$ 型の漸化式

$p \neq 0, 1$ とする. 漸化式

(i) $a_1 = a$

(ii) $a_{n+1} = pa_n + q_1n + q_0$

で定義される数列の一般項を求めよう. $q_1 = 0$ のときは, $a_{n+1} = pa_n + q$ 型の漸化式であるから¹, $q_1 \neq 0$ とする. 数列 $\{a_n\}$ の階差数列が, $a_{n+1} = pa_n + q$ 型の漸化式で定義される数列になるという事実を用いる.

漸化式 $a_{n+1} = pa_n + q_1n + q_0$ の n に $n+1$ を代入することにより, 等式 $a_{n+2} = pa_{n+1} + q_1(n+1) + q_0$ が得られる. この2つの漸化式の両辺の差を考えることにより, 等式

$$(a_{n+2} - a_{n+1}) = p(a_{n+1} - a_n) + q_1$$

が得られる. ここで, 数列 $\{b_n\}$ を

$$b_n = a_{n+1} - a_n \quad (2)$$

で定義すると, 数列 $\{b_n\}$ の漸化式

(i) $b_1 = a_2 - a_1 = -(1-p)a + q_1 + q_0$

(ii) $b_{n+1} = pb_n + q_1$

が得られる. よって, $a_{n+1} = pa_n + q$ 型の漸化式の公式 (1) より, 数列 $\{b_n\}$ の一般項は,

$$b_n = b_1p^{n-1} + \frac{q_1(1-p^{n-1})}{1-p}$$

と表せる. 後の都合のため, b_n をさらに次のように変形しておく.

$$\begin{aligned} b_n &= \{-(1-p)a + (q_1 + q_0)\}p^{n-1} + \frac{q_1(1-p^{n-1})}{1-p} \\ &= \left\{-(1-p)a + (q_1 + q_0) - \frac{q_1}{1-p}\right\}p^{n-1} + \frac{q_1}{1-p} \end{aligned} \quad (3)$$

数列 $\{b_n\}$ はその定義 (2) から, 数列 $\{a_n\}$ の階差数列なので, $\{a_n\}$ の一般項 ($n \geq 2$) は,

$$\begin{aligned} a_n &= a + \sum_{k=1}^{n-1} b_k = a + \left\{-(1-p)a + (q_1 + q_0) - \frac{q_1}{1-p}\right\} \sum_{k=1}^{n-1} p^{k-1} + \frac{q_1}{1-p} \sum_{k=1}^{n-1} 1 \\ &= a + \left\{-(1-p)a + (q_1 + q_0) - \frac{q_1}{1-p}\right\} \frac{1-p^{n-1}}{1-p} + \frac{q_1(n-1)}{1-p} \\ &= \dots = ap^{n-1} + \frac{(q_1n + q_0)(1-p^{n-1})}{1-p} + q_1 \left\{ \frac{(n-1)p^{n-1}}{1-p} - \frac{1-p^{n-1}}{(1-p)^2} \right\} \end{aligned} \quad (4)$$

と計算できる. これは, $n = 1$ のときも成り立つ.

¹漸化式 (i) $a_1 = a$, (ii) $a_{n+1} = pa_n + q$ で定義される数列の一般項は,

$$a_n = ap^{n-1} + \frac{q(1-p^{n-1})}{1-p} \quad (1)$$

と表せるのであった. <https://gleamath.com/recurrence-relation03/>

さらに、(4) 式の最後の項については、 $n \geq 2$ に対して、次の補題が成り立つ。

補題. $n \geq 2$ とする。次が成り立つ。

$$\sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} = \frac{1-p^{n-1}}{(1-p)^2} - \frac{(n-1)p^{n-1}}{1-p}$$

証明. $\sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} - \sum_{k=1}^{n-1} kp^k$ は、次のように計算できる。

$$\begin{array}{r} \sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} = 1 + 2p + 3p^2 + \cdots + (n-1)p^{n-2} \\ -) \sum_{k=1}^{n-1} kp^k = p + 2p^2 + \cdots + (n-2)p^{n-2} + (n-1)p^{n-1} \\ \hline (1-p) \sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} = 1 + p + p^2 + \cdots + p^{n-2} - (n-1)p^{n-1} \end{array}$$

よって、

$$\begin{aligned} (1-p) \sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} &= \sum_{k=1}^{n-1} p^{k-1} - (n-1)p^{n-1} \\ &= \frac{1-p^{n-1}}{1-p} - (n-1)p^{n-1} \end{aligned}$$

となり、両辺を $1-p$ で割ることにより、結果が従う。 □

補題と (4) 式から、冒頭の漸化式で定義される数列 $\{a_n\}$ の一般項は、

$$a_n = ap^{n-1} + \frac{(q_1n + q_0)(1-p^{n-1})}{1-p} - q_1 \sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1} \quad (5)$$

と表せる (ただし、 $n \geq 2$)。

注意. 冒頭で述べたように、 $a_{n+1} = pa_n + q_1n + q_0$ 型の漸化式で定義される数列は、その階差数列が、 $a_{n+1} = pa_n + q$ 型の漸化式で定義される数列になるという点が大切である。さらに、 $a_{n+1} = pa_n + q$ 型の漸化式で定義される数列は、その階差数列が等比数列になるという事実から、その一般項を求めていたのであった。以上の考察から、 $a_{n+1} = pa_n + q_1n + q_0$ 型の漸化式で定義される数列は、二階階差数列²が、等比数列になることがわかる。

帰納的に考えることにより、一般的には、 $f(n)$ を n の d 次多項式としたとき、 $a_{n+1} = pa_n + f(n)$ 型の漸化式で定義される数列は、 $d-1$ 階階差数列が等比数列となることがわかる。一般の場合に、(5) のような一般項の表記を求めることは容易でないが、是非とも試みていただきたい。結果は次のようになる³：

$$a_n = ap^{n-1} + \sum_{k=1}^{n-1} f(n-k)p^{k-1}.$$

²階差数列の階差数列ということ。

³詳細は、<https://gleamath.com/recurrence-relation05/> を参照。